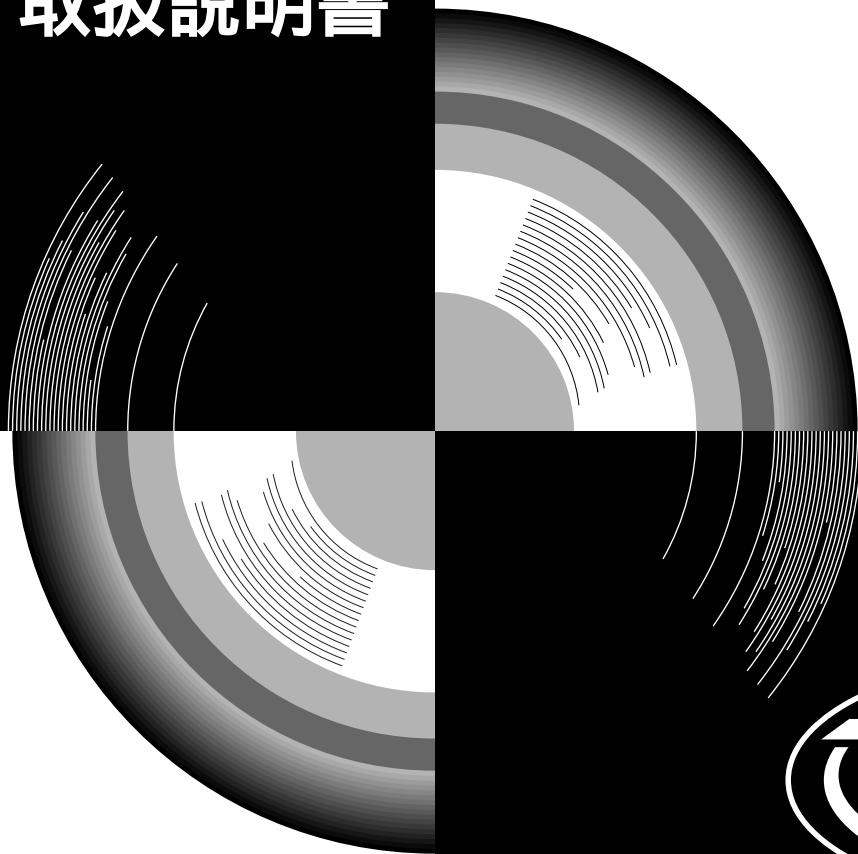




取扱説明書



5LB-28199-J1

はじめに

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

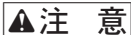
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 保証書の発行（保証書裏面の記入・捺印）

車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡ししてください。

仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

安全運転のために	2	ならし運転のしかた	26	エンジンオイルの補給	43
あなた自身と同乗者のために	2	ブレーキの使いかた	26	エアクリーナーエレメントの 清掃	44
歩行者と他の車のために	7	エンジンの非常停止	27	ドライブチェーン	45
環境・住民の方との調和のために	8	日常点検	28	バックミラー	46
名称と操作	10	日常点検の実施	28	タイヤ	46
各部の名称	10	日常点検箇所 / 点検内容	28	バッテリー	47
計器類の見かた	12	日常点検の方法	29	ヒューズ	49
キーの取り扱い	13	定期点検整備	33	お車の手入れ	50
メインスイッチ	13	定期点検整備の実施	33	洗車	50
ハンドルロック	14	定期点検整備の方法	33	保管のしかた	51
ハンドルスイッチの使いかた	16	アンダーブラケットの 取り付け状態の点検	34	アフターケア用品について	52
フューエルコック	18	クラッチレバーの遊びの点検	34	サービスデータ	54
チョークノブ	18	ドライブチェーンの点検	35	製品仕様	54
ヘルメットホルダー	19	ドライブチェーンの点検	35	サービスデータ	55
シートの取り外しかた	19	エアクリーナーエレメントの 点検	35	車両情報	巻末
シートの取り付けかた	19	車体各部の給油脂状態の点検	36		
書類入れ	20	バッテリーの点検	36		
リヤキャリア	20	ブレーキパッドの点検	37		
サービスツール	20	ブレーキシューの摩耗点検	38		
燃料補給	21	やさしい整備	39		
ガソリンの給油	21	やさしい整備	39		
運転操作	22	ブレーキの遊びの調整	40		
エンジンのかけかた	22	ブレーキ液の補給	41		
走りかた	24	ブレーキランプスイッチ	42		
ギヤチェンジのしかた	25	クラッチレバーの調整	42		
シフトダウンのしかた	25				

安全運転のために 2**名称と操作** 10**燃料補給** 21**運転操作** 22**日常点検** 28**定期点検整備** 33**やさしい整備** 39**お車の手入れ** 50**サービスデータ** 54**車両情報** 巻末

安全運転のために

JAU01896

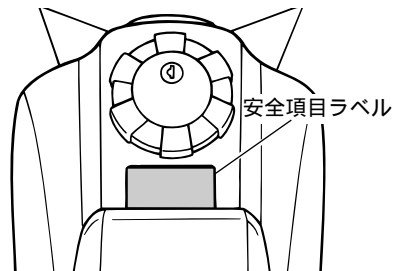
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU01905

1.あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて



運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

3XC-2118K-10

安全運転は正しい服装から



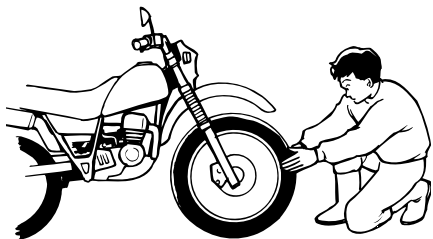
- ヘルメットは必ず着用してください。
ヘルメットはSまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ないものを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
- 靴はかかとが低く、足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。

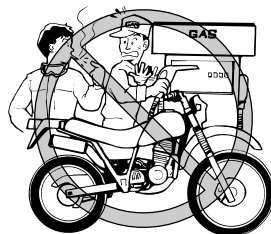
運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を
必ず行う



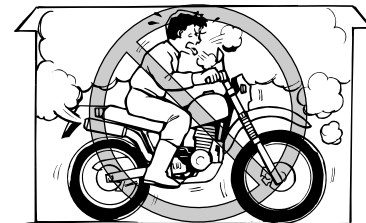
事故や故障を防ぐため、法令で定められた
1日1回ご使用前に行う日常点検と、法令
で定められた6か月、12か月ごとに行う
定期点検は必ず実施してください。

給油時は火気厳禁



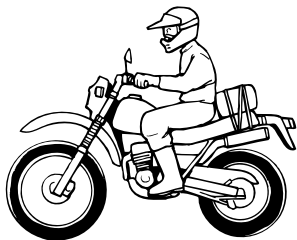
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃
料です。給油時は必ずエンジンを止め、火
気を近づけないでください。

風通しの悪い場所でエンジンを
始動しない



排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成
分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけ
ると、ガス中毒を起こす危険があります。
エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい
屋外で行ってください。

荷物はしっかり固定する



荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。

荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

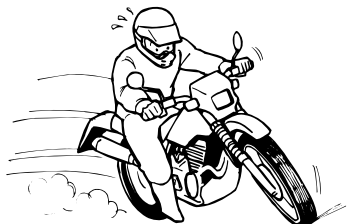


- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

乗車定員は2名

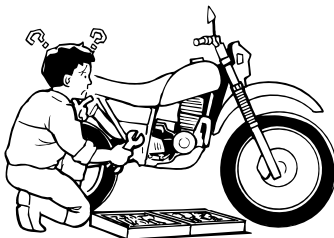
ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転は
しない



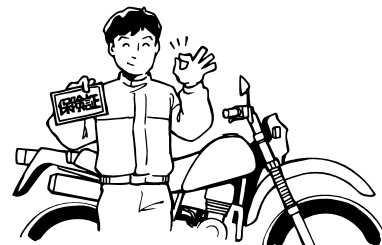
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

自己流のエンジン調整、部品の
取り外しはしない



エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

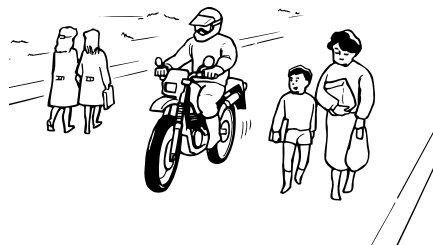
自賠償保険に必ず加入



自賠償保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。また、保険の期限切れにも注意してください。

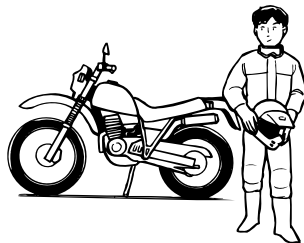
2.歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

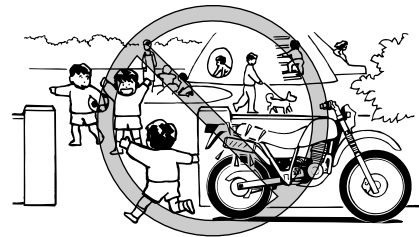


- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。
歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

駐車



- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、Pロック、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。



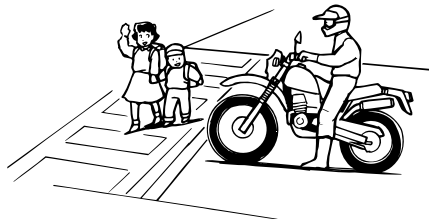
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

警告

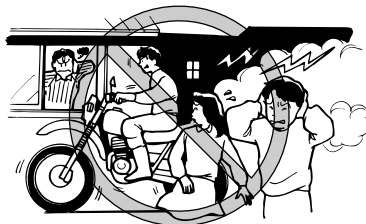
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。
また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

3.環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

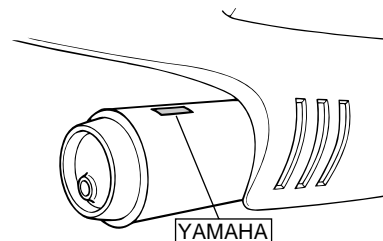


自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない



違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

環境への配慮



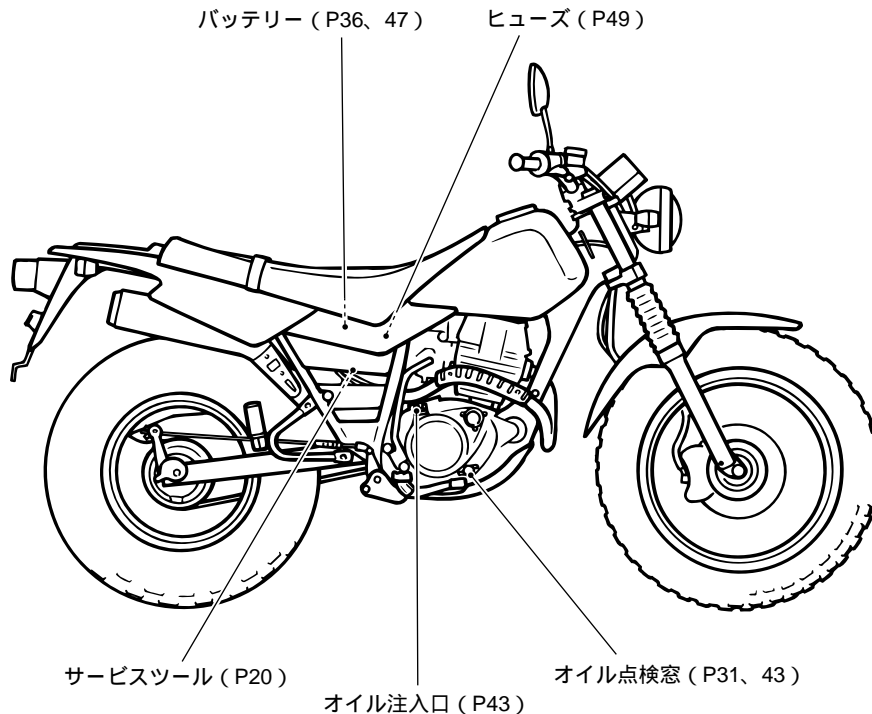
河原・森林・山野には小鳥や小動物がいます。
走行場所、走行方法には
十分気をつけて走りましょう。

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

名称と操作

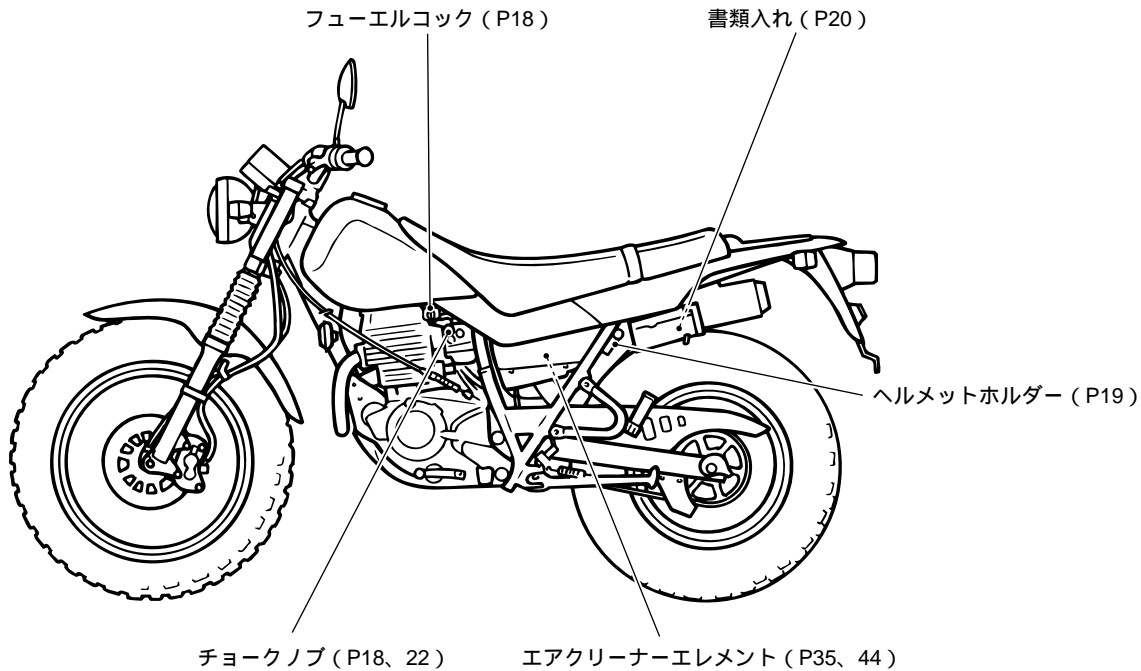
JAU01918

各部の名称

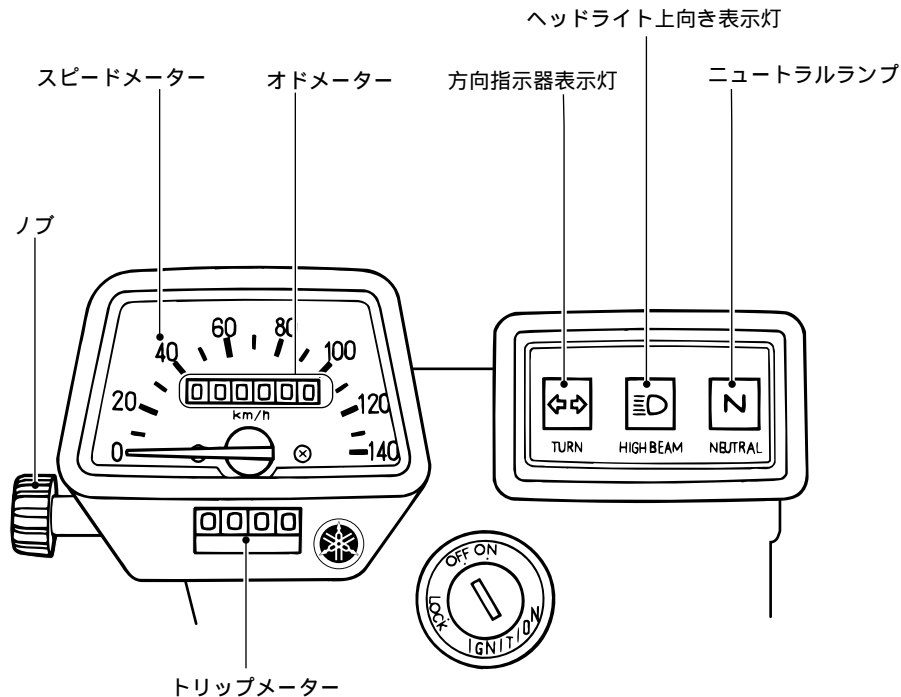


各部の名称を示してあります。() 内に参照ページがあるものは、そのページに詳しい説明があります。

(.....部は外からは見えない部分です。)



計器類の見かた



JAU01922

スピードメーター

車の速度を指針で示します。

JAU01924

オドメーター

走行した総距離を示します。

1ケタ目（白地に黒文字）が100m単位で、
2ケタ目がkm単位です。

オイル交換や定期点検整備の目安にもなります。

JAU01928

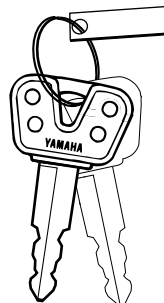
トリップメーター

メーターをリセット（数字が“0”）した
時点からの走行距離を示します。

リセットするときはノブ（つまみ）を回します。

JAU03769

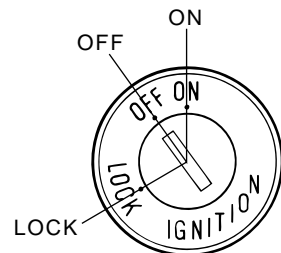
キーの取り扱い



- キーは車の操作や保管をするときに使用する、大切なものです。キーを紛失しないよう、十分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。

JAU02013

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JAU01941

ニュートラルランプ (N)

メインスイッチがONで、ギヤチェンジがニュートラルのときに点灯します。

JAU01944

方向指示器表示灯 (⇐⇒)

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU01945

ヘッドライト上向き表示灯 (≡D)

ヘッドライトを上向き点灯すると、表示灯も点灯します。

JAU02022

ON

- エンジンの始動ができます。
- テールランプ、メーター灯が点灯します。
- エンジンを始動させると、ヘッドライトが点灯します。
- キーは抜けません。

要 点

- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。
- エンストしてもヘッドライトは点灯しています。

JAU02036

OFF

- エンジンを止めます。
エンジンは始動できません。
- キーの抜き差しができます。

JAU02038

LOCK (ハンドルロック)

- ハンドルをロックします。
- キーの抜き差しができます。

JAU02042

警告

走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

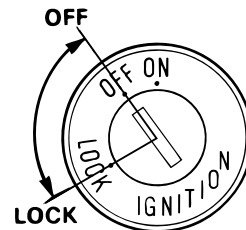
JAU02045

注意

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。
- メインスイッチをONのままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

JAU02059

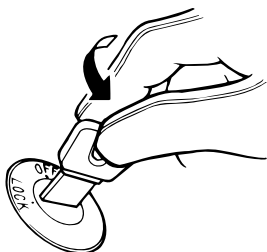
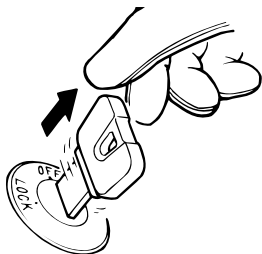
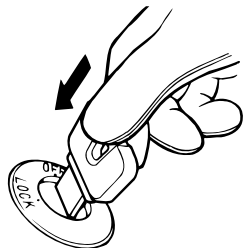
ハンドルロック



ハンドルロックは駐車時などの盗難予防用です。

ロックのしかた

1. ハンドルを左右どちらかへいっぱいに切ります。
2. OFFの位置でキーを押し込みます。
3. 手を放し、キーがもとに戻った状態でLOCKまで回します。



要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

4. ハンドルを軽く左右に動かして、ロックを確認します。
5. キーを抜きます。

警告

- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

注意

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。



解除のしかた

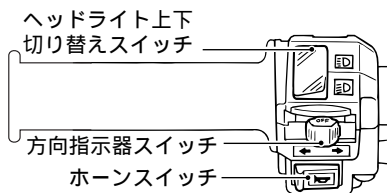
キーを差し込み、LOCKの位置からそのままOFFまで回します。

警告

走行前にハンドルを左右に切り、切れ角が左右均等であるかを確認します。

JAU02070

ハンドルスイッチの使いかた



JAU03916

ヘッドライト上下切り替えスイッチ ($\equiv D$ $\equiv D$)

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

$\equiv D$ (上向き) : 遠くを照らします。

$\equiv D$ (下向き) : 近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き $\equiv D$ にしてください。

JAU03550

方向指示器スイッチ (⇐⇨)

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨ : 右側の方向指示灯が点滅します。

⇨ : 左側の方向指示灯が点滅します。

警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他の方の迷惑になります。

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

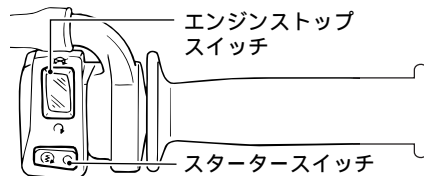
JAU02083

ホーンスイッチ (📣)

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときのみ使用してください。



JAU02092

スタータースイッチ (⊗)

スターターモーターを回転させ、エンジンを始動させるスイッチです。

▲注意

スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

JAU03994

エンジンストップスイッチ (⊗)

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は○にしておきます。

▲警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

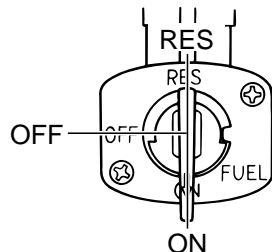
▲注意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを○ ⊗ ○にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。

要 点

⊗にすると、エンジンは始動できません。

フューエルコック



ON

始動および走行時のレバー位置です。

RES

予備燃料（予備容量約1L）のレバー位置です。

ONで走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーをONに戻してください。

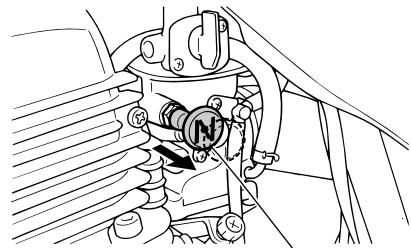
OFF

駐車時のレバー位置です。
ガソリンは流れません。

要 点

長期間使用しないときは、レバーを必ずOFFの位置にしてください。

チョークノブ



チョークノブ

エンジンが冷えているときは、チョークノブを引くと始動が容易になります。

要 点

この車のチョークノブには、2段階の節度があります。

エンジンが始動したら、20～30秒後にチョークノブを1段階目まで戻します。

エンジンが充分暖まったら、チョークノブをいっぱいまで戻します。

▲注 意

走行するときは、必ずチョークノブを戻してください。

ヘルメットホルダー

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。



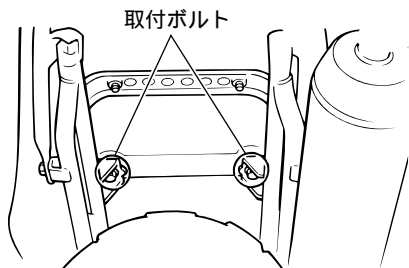
警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、ヘルメットが損傷し保護機能が低下することがあります。また、車に損傷を与えることがあります。

要点

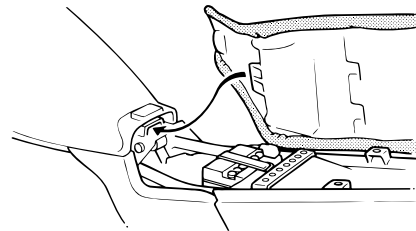
ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

シートの取り外しかた



シート裏側の取付ボルトを外し、シートを外します。

シートの取り付けかた



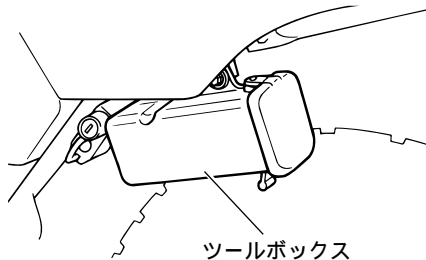
シート前方のストッパーを車体のフックに入れ、取付ボルトを締め付けます。

要点

シートが正しく取り付けられているか確認してください。

書類入れ

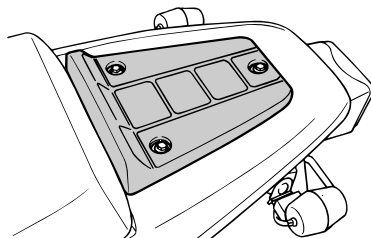
左のサイドカバー後方のツールボックス内に書類入れ（収納用ポーチ）があります。保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、ここに保管してください。ポーチはまるめてツールボックスに入れてください。



ツールボックス

リヤキャリア

リヤキャリアに荷物を積むときは、ひもなどでしっかり固定してください。

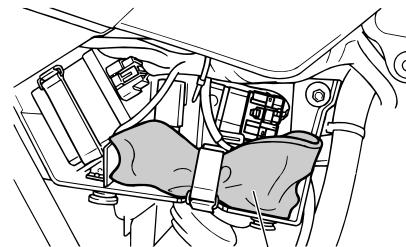


⚠ 警告

- リヤキャリアに積める荷物は3kgまでです。
- 荷物を積みすぎると、荷くずれを起こしたりハンドルが振られたりして危険です。

サービスツール

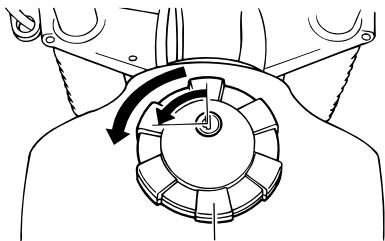
右のサイドカバーを外すと、バンドで固定してあります。



サービスツール

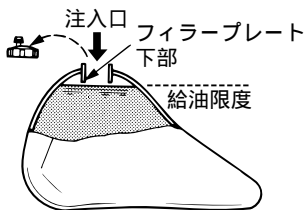
ガソリンの給油

1. キーを差し込み、反時計方向に回してフューエルタンクキャップのロックを解除します。
2. フューエルタンクキャップを反時計方向に回して開けます。



フューエルタンクキャップ

3. ガソリンを給油します。
ガソリンは、注入口にあるフィルタープレート下部より上に入れしないでください。



4. 給油後は、フューエルタンクキャップを時計方向に止まるまで確実に回しませず。
5. キーを時計方向に回し、フューエルタンクキャップをロックします。
6. キーを抜きます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることができません。

タンク容量：約7L（予備容量含）
使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

⚠ 警 告

- ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。
- ガソリンをフィルタープレート下部より上に入れしないでください。
走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
給油限度を守って給油してください。
- フューエルタンクキャップは確実に閉めてください。

⚠ 注 意

- こぼれたガソリンは、布きれなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

運転操作

エンジンのかけかた

エンジンをかける前に

1. フューエルコックをON（あるいはRES）にします。
2. メインスイッチをONにします。
3. エンジンストップスイッチが○か確認します。
4. ギヤチェンジをニュートラルにします。（ニュートラルランプが点灯します。）

警告

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。

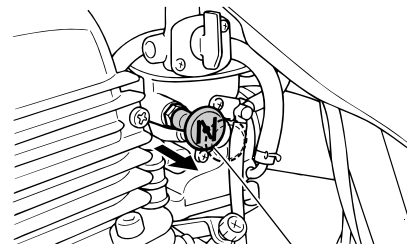
要 点

この車には、エンジン始動時の飛び出しを防止するクラッチスイッチと、発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。

- サイドスタンド格納時は、ギヤチェンジがニュートラルを除き、クラッチレバーを握らなければエンジンは始動できません。
- サイドスタンド使用時は、ギヤチェンジをニュートラルにしないとエンジンは始動できません。

エンジンが冷えているとき

1. チョークノブをいっぱいに引きます。



チョークノブ

2. スロットルグリップを戻します。
3. スタータースイッチを押します。
4. エンジンが始動したら、20～30秒後にチョークノブを1段目まで戻して暖機運転をします。
5. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したらチョークノブをいっぱいまで戻します。

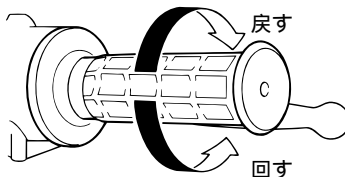
要 点

スタータースイッチで5秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10秒位休ませてから押しなおしてください。

JAU02414

エンジンが暖まっているとき

1. スロットルグリップを手前に少し回し、スタータースイッチを押します。
2. エンジンが始動したらスロットルグリップを戻します。



JAU02430

4～5回スタータースイッチを押ししても始動しないとき

チョークノブを元に戻し、スロットルグリップをいっぱいに開けると始動しやすくなります。

⚠ 注 意

エンジンが始動したら、スロットルグリップをすばやく戻してください。

JAU03214

バッテリーがあがり、セルスターターでは始動しないとき

エンジン右側にあるキック crank を力強くキックします。

⚠ 警 告

ギヤチェンジが入った状態でクラッチを切らないでキックすると、飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認してエンジンをかけてください。

JAU02432

エンジンの止めかた

メインスイッチをOFFにするとエンジンが止まります。

JAU02435

走りかた

1. サイドスタンドを確実に格納します。

⚠警告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
この車には発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。発進時には必ず格納してください。
- 走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

⚠注意

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

2. クラッチレバーを握り、シフトペダルでギヤチェンジを1速に入れ、静かに発進します。

要 点

サイドスタンドが確実に戻っていないときギヤチェンジをすると、サイドスタンドスイッチによりエンジンが停止します。

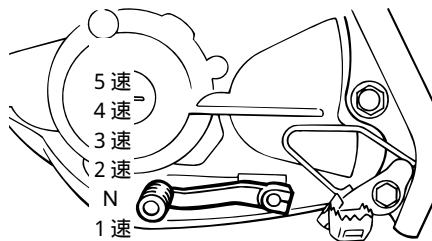
3. 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。

⚠警告

走行中に異常を感じたときは、すぐにヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

ギヤチェンジのしかた

この車はリターン式の5段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

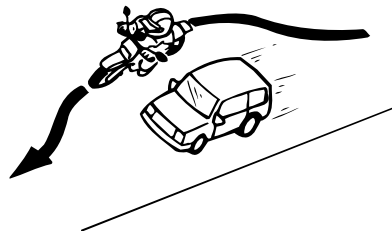


▲注意

- シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

シフトダウンのしかた

追い越しや登坂時などにシフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると、強力な加速力および登坂力が得られます。なお、高速で急激なシフトダウンを行うと、エンジンの回転が上がりすぎてエンジンやミッションに悪影響を与えます。



▲警告

急激なシフトダウンは走行安定性をそこない、転倒などの原因となりますのでしないでください。

▲注意

ギヤチェンジは必ずクラッチレバーをいっばいに握って行ってください。
クラッチレバーをいっばいに握らずに強引なギヤチェンジを行うと、エンジントラブルの原因となります。

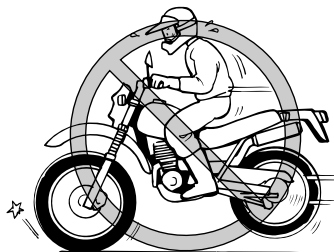
ならし運転のしかた

初回1か月目（または1,000km走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。また、不要なからぶかしや急加速、急減速はしないでください。

ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

ブレーキの使いかた

- ブレーキは前後輪同時にかけてください。
- 不要な急ブレーキはかけないでください。
急ブレーキをかけると、横すべりや転倒の原因となるときがあります。



警告

雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、安全な場所で前後の車に充分注意し、低速で走行しながらききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りをかわかしてください。

要点

- 前輪または後輪ブレーキだけを使うと、横すべりや転倒の原因となるときがあります。必ず前後のブレーキを同時にかけてください。
- 雨の日や路面がぬれているところ、雪道や凍った道路では、滑りやすく制動距離も長くなります。速度を落として、余裕をもった運転をしてください。
- 長い下り坂などで連続してブレーキを使用すると、フェード現象の原因となります。このようなときは、エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作で走行してください。

エンジンの非常停止

要 点

フェード現象

- ブレーキ部の温度が上昇すると、ブレーキのききが悪くなるか、まったくきかなくなる現象。

エンジンブレーキ

- 走行中、スロットルグリップを戻したときにかかる制動力で、低速ギヤほどエンジンブレーキがききます。

何らかの原因でエンジンのコントロールができなくなると、きわめて危険な状態になります。

このような非常時にメインスイッチでエンジンを停止できないときは、エンジンストップスイッチを☒にしてください。ハンドルから手をはなすことなく、直ちにエンジンを停止することができます。

日常点検

JAU03277

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU02486

日常点検箇所 / 点検内容

詳しい点検の方法は、次頁以降の日常点検の方法および別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降を参照してください。

点 検 箇 所	点 検 内 容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。
エンジン	<p>エンジンオイルの量が適当であること。 かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。 低速、加速の状態が適当であること。</p>
灯火装置 および方向 指示灯	<p>点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。</p>
運行において異常が認められた箇所	<p>当該箇所に異常がないこと。</p>

(注)

印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

警告

点検するときには下記の内容に注意してください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。
ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときには、交通状況に注意してください。

日常点検の方法

ブレーキレバーの遊び/ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU02501

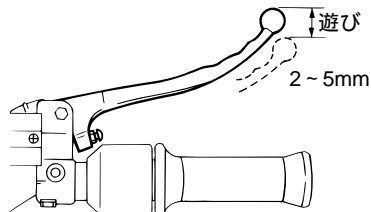
ブレーキの遊びの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

遊びは2～5mm

(ブレーキレバーの遊びの調整は40ページ参照)



警告

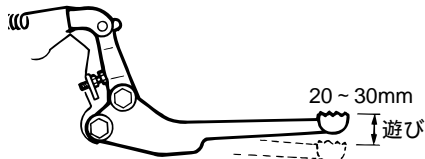
ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

<後輪ブレーキ>

ブレーキペダルを手で押し、抵抗を感じるまでの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

遊びは20～30mm

(ブレーキペダルの遊びの調整は40ページ参照)



JAU02502

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

警告

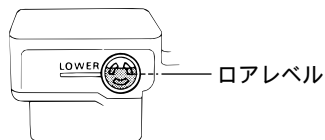
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU02504

ブレーキ液量の点検

マスターシリンダーキャップ上面を地面と平行にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

(ブレーキ液の補給は、41ページ参照)



警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。

ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

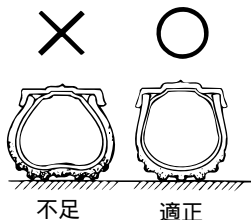
JAU03513

タイヤの空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。

たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

(タイヤ空気圧は46ページ参照)



JAU03553

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

JAU02509

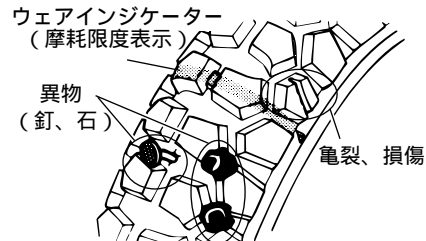
タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU03273

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。タイヤに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



警告

タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- より安全な走行のため、溝の深さが 4.0 mm 以下になりましたらタイヤの交換をおすすめします。

JAU02535

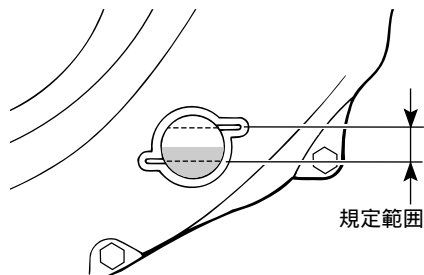
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを始動し、2～3分間アイドリング運転します。

要点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止め、車を垂直にします。
3. 2～3分後、エンジンオイルが点検窓の規定範囲内にあるかを点検します。



オイルが不足しているときは、43ページを参照して補給してください。

警告

エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。

ヤケドに注意してください。

JAU02540

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

アイドル時に異音がないかを点検します。

JAU02541

低速、加速の状態の点検

暖機運転後に、アイドルがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02544

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチをONにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトが良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（49ページを参照）し、異常がないときは電球を交換（54ページを参照）してください。

▲注意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU02552

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行中に支障がないかを点検します。

定期点検整備

JAU0279

定期点検整備の実施

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6 か月点検と1 2 か月点検の2種類があります。

警告

- 定期点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU02555

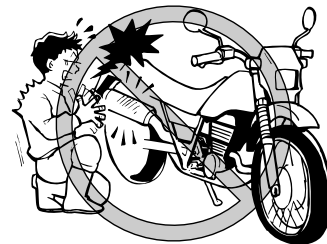
定期点検整備の方法

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。

実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

要点

- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。



警告

点検するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

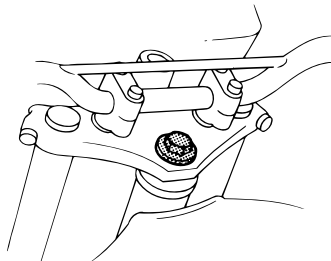
- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。

- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JAU02557

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

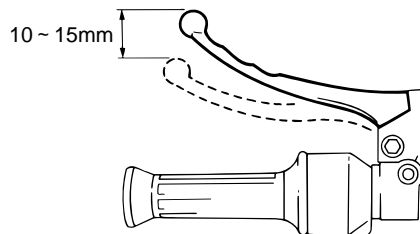
JAU02559

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

遊びは10～15mm

（クラッチレバーの遊びの調整は42ページ参照）

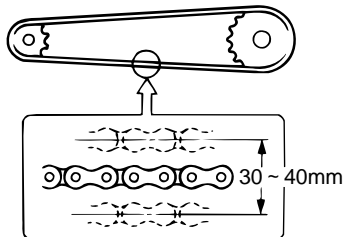


ドライブチェーンの点検

サイドスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たるみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

(ドライブチェーンの調整は、45ページ参照)



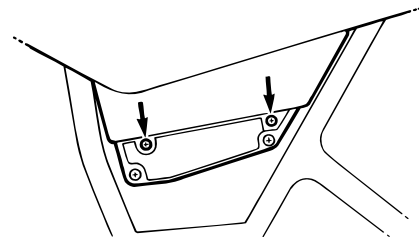
エアクリーナーエレメントの点検

エレメントを取り出し、汚れによる詰まりなどを点検します。

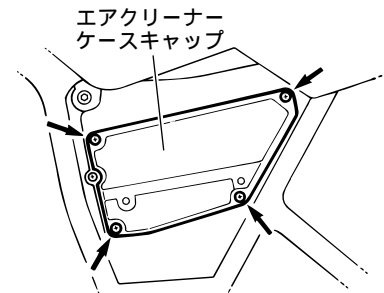
ほこりなどが著しく多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検・清掃を行ってください。

エアクリーナーエレメントの取り外し

1. 左のサイドカバーを取り外します。

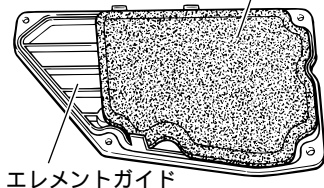


2. エアクリーナーケースキャップを外し、エレメントガイドを外します。



3. エレメントガイドからエアクリナーエレメントを取り外します。

エアクリナーエレメント



JAU02630

エアクリナーエレメントの取り付け

- 取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。
(エレメントの清掃方法は、44ページ参照)

JAU02635

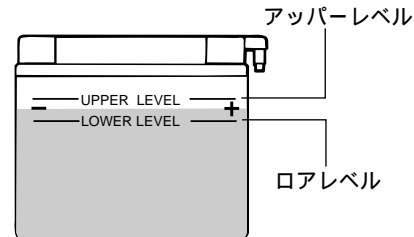
車体各部の給油脂状態の点検

- 車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU02640

バッテリーの点検

- シートを外し、車を垂直にします。バッテリー各槽の液量が、アッパーレベルとロアレベルの間にあるかを点検します。
(バッテリー液の補給は、48ページ参照)



警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。
爆発のおそれがあります。
- バッテリーの液量がロアレベル以下の状態で使用または充電すると、バッテリーの劣化を早めたり、爆発の原因となるおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。
応急手当
- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

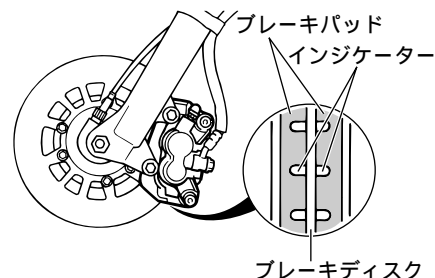
JAU02652

ブレーキパッドの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキパッドのインジケータ溝の深さで摩耗の状態を点検します。

インジケータ溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。



ブレーキシューの摩耗点検

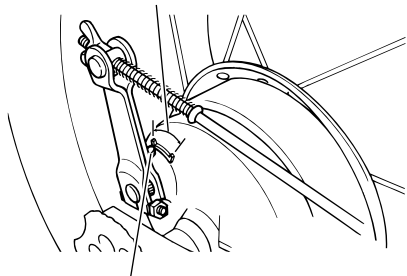
<後輪ブレーキ>

ブレーキシューの摩耗の状態を点検します。

ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、インジケーターがシュープレートの使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。

ヤマハ販売店で交換・整備を受けてください。

使用範囲



インジケーター

警告

ブレーキシューの交換時には、ブレーキシューのテンションスプリングも同時に交換してください。

やさしい整備

JAU03281

やさしい整備

点検をして車に異常が認められたときには、調整、清掃、交換などの整備が必要となります。ここでは、通常行われることが多い簡単な整備方法を説明しています。

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検・整備は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

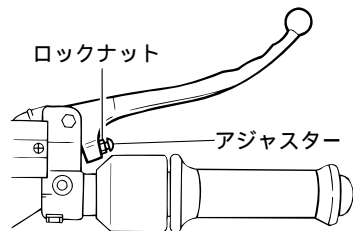
要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

ブレーキの遊びの調整

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバー先端部の遊びが2～5mmになるように、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

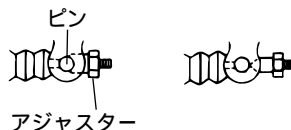
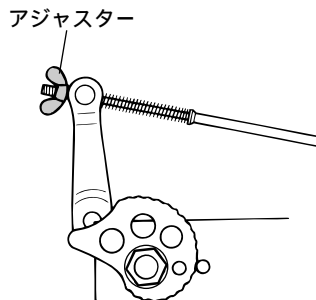


▲注意

調整後、ロックナットを確実に締め付けます。

<後輪ブレーキ>

ブレーキペダル先端部の遊びが20～30mmになるように、アジャスターで調整します。



要 点

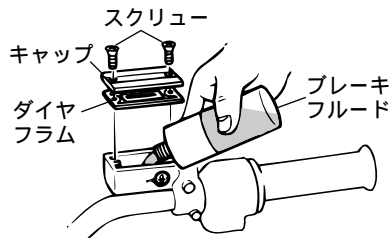
アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。

▲注意

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯と、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

ブレーキ液の補給

1. リザーバタンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。



指定ブレーキ液：

ヤマハ純正ブレーキフルードBF - 4

(DOT - 4)

警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。
銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。
液が早く減少するようでしたら、お買い上げのヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために1年毎の交換をおすすめします。

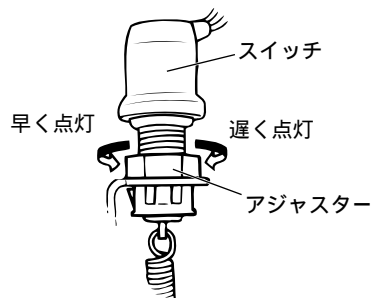
注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

リアブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



▲注意

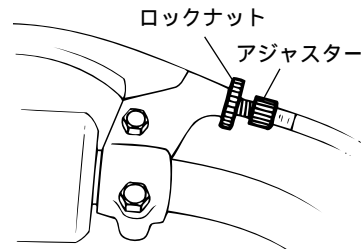
リアブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

クラッチレバーの調整

レバー先端部の遊びが10～15mmになるように、カバーをずらし、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。



▲警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。

なお、車の飛び出しに注意してください。

エンジンオイルの補給

▲注意

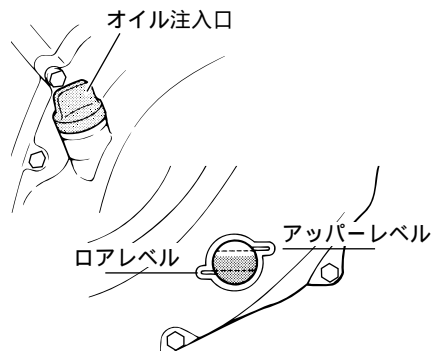
- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

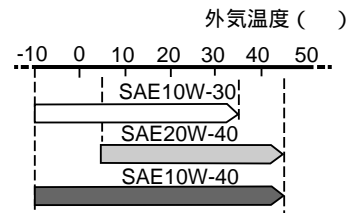
2. エンジンを止めて車を垂直にし、2～3分後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。
3. オイル点検窓でオイル量を確認し、ロアレベル以下のときはオイル注入口から補給します。



<推奨エンジンオイル>

	SAE規格	API分類
ヤマハ純正オイル エフェロSJ	10W-40	SJ
ヤマハ純正オイル エフェロSG	10W-40	SG
ヤマハ純正オイル エフェロSF	20W-40または 10W-30	SF

エンジンオイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



エンジンオイルの交換時期

	エンジンオイル	オイルフィルター
初回	1 か月点検時 または1,000km時	1 か月点検時 または1,000km時
以降	3,000km走行毎	9,000km走行毎

警告

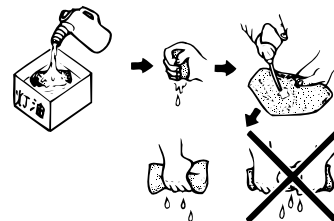
- 走行後やエンジン暖機運転後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。
ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがずべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

エアクリーナーエレメントの清掃

1. エアクリーナーエレメントを取り外します。（35ページ参照）
2. エアクリーナーエレメントをきれいな灯油で洗浄し、ME-Rフィルターオイルに浸してから布きれなどで包み、しぼります。



3. エレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

ドライブチェーン

▲注意

ガソリンや、有機性の揮発油（酸性、アルカリ性共に）で洗淨しないでください。

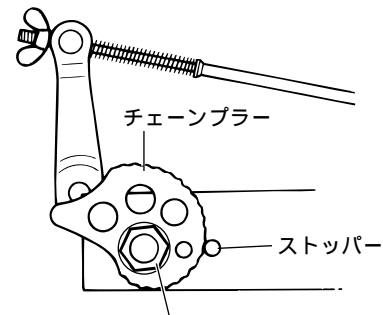
- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマハME-2チェーンクリーナーで洗淨します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにME-1チェーンオイルを給油します。

チェーンの張り調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。
2. チェンプラーを左右均等に回転させ、同じ位置でストッパーに合わせます。（目盛りを左右同位置にします。）
3. 張り具合が規定値になるように調整します。（35ページ参照）
4. 調整後、セルフロックングナットを確実に締め付けます。



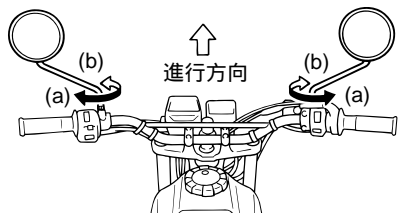
セルフロックングナット

バックミラー

バックミラーの取り付けおよび
取り外しかた

左バックミラー

右バックミラー



- 右バックミラーは左ネジです。
左：反時計回り (a) に回すと締まります。
右：時計回り (b) に回すとゆるみます。
- 左バックミラーは右ネジです。
右：時計回り (a) に回すと締まります。
左：反時計回り (b) に回すとゆるみます。

タイヤ

空気圧

空気圧はタイヤの冷えているときに測定して
ください。

		前 輪	後 輪
タイヤ 空気圧	1名乗車	125kPa (1.25kg / cm ²)	125kPa (1.25kg / cm ²)
	2名乗車	150kPa (1.50kg / cm ²)	175kPa (1.75kg / cm ²)
	高速走行	150kPa (1.50kg / cm ²)	175kPa (1.75kg / cm ²)
タイヤサイズ		130/80-18 66P	180/80-14M/C 78P
指定 タイヤ	ブリヂストン	TW203	TW204

溝の深さ

安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的にトレールタイプのタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが4mm以下になりましたら交換をおすすめします。

警告

異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。

バッテリー

バッテリー液の不足やバッテリーターミナル部の汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して補充・清掃をします。

▲警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- バッテリーの液量がロアレベル以下の状態で使用または充電すると、バッテリーの劣化を早めたり、爆発の原因となるおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

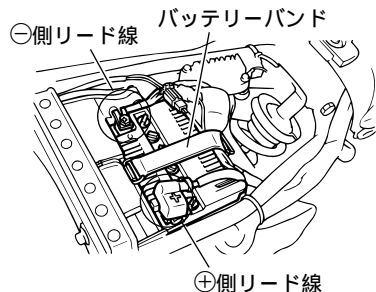
▲注意

- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。
- バッテリー液がエンジン・車体部品にかかったときは、すぐに水で洗ってください。
- バッテリー取り付け後は、必ずバッテリーブリーザーホースを確実に取り付けてください。（ブリーザーホースの取り付けは、49ページ参照）

JAU02774

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。
2. バッテリーバンドを外します。
3. ⊖(マイナス)側リード線を外し、次に ⊕(プラス)側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



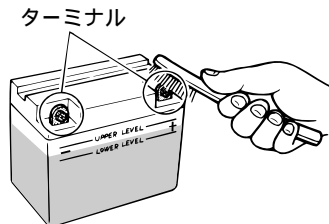
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU02808

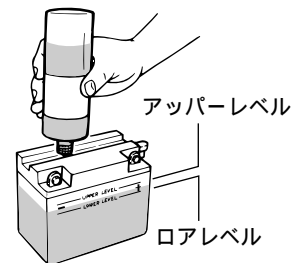
ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



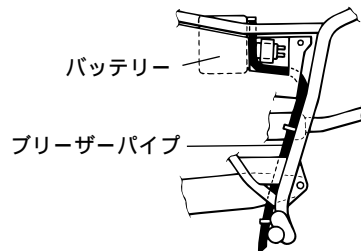
バッテリー液の補充

バッテリー液がロアレベル以下のときは、キャップを外し、各槽のアッパーレベルまで蒸留水を補充してください。



ブリーザーホースの取り付けかた

バッテリー点検時、ブリーザーホースが正しく取り付けられているか確認します。

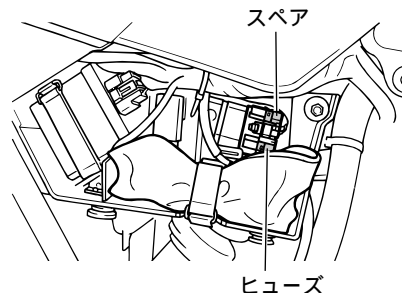


注意

- ブリーザーホースの取り回しが悪いと、バッテリー液がフレームにかかり腐食の原因となります。
- ブリーザーホースが折れ曲がっていたり、つまっていたりすると、バッテリーケース破損の原因となります。

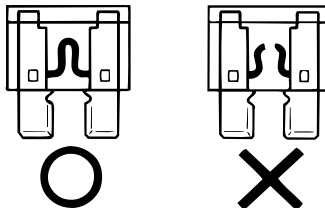
ヒューズ

右のサイドカバーを取り外すと、ヒューズホルダーにセットされています。



規定ヒューズ：20A

ヒューズが切れたときは、原因を調べてからスペアと交換してください。



注意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹きかけないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

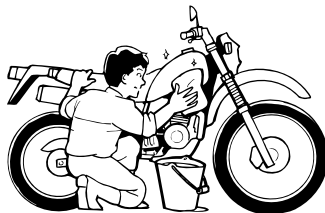
お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

JAU02850

洗 車



雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力をかける洗車をしないでください。キズの原因になります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドに、ワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

保管のしかた

▲注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。

要 点

ツールボックス付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

▲注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

1. 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
2. 6 か月ごとにバッテリーの補充電をしてください。
3. 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

A) 4サイクルオイルエフェロSJ

高速走行から高負荷のスポーツ走行まで安心して使える、スポーツタイプのオイルです。

B) 4サイクルオイルエフェロSG

走行を選ばず、あらゆる走行条件に対応するマルチタイプのオイルです。

C) 4サイクルオイルエフェロSF

一般走行、業務用に最適なベーシックタイプのオイルです。

D) ブレーキフルード

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。

E) ユニコンカークリーム(ワックス)

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

F) ME-1(防錆潤滑剤)

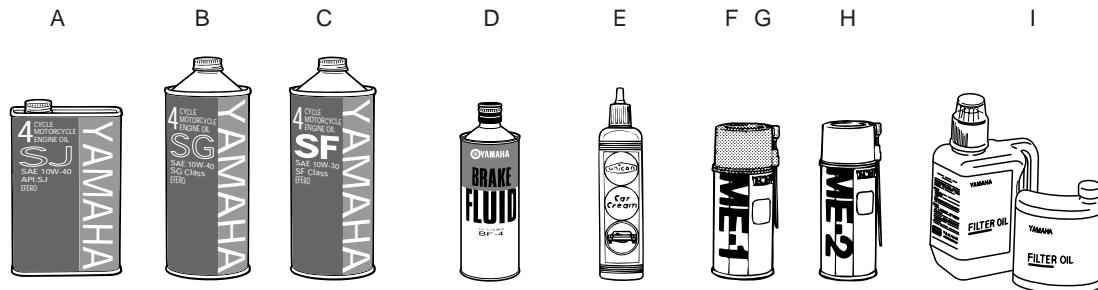
防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。

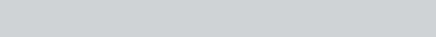
G) ME-1チェーンオイル

ドライブチェーンの摩耗や、騒音の防止に効果があるチェーンオイルです。

H) ME-2チェーンクリーナー

チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。





1) ME-Rフィルターオイル

ヤマハコンペティションモデル専用に開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本MXラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。

サービスデータ

製品仕様

通称名	トレールウェイTW200E	原	内径 × 行程	67.0 × 55.7mm	減	第1次減速歯数・比	73/22	3.318		
車名・型式	ヤマハ・BA-DG07J		圧縮比	9.5 : 1		速	1速	34/12	2.833	
寸法	全長	2090mm	機	エアクリナー形式	湿式ウレタンフォーム	比	2速	34/19	1.789	
	全幅	820mm		クラッチ形式	湿式多板		3速	29/22	1.318	
	全高	1110mm		ミッション・チェンジ方式	常時噛合式前進5段		4速	26/25	1.040	
	軸間距離	1330mm		始動方式	セル/キック併用		5速	23/28	0.821	
	最低地上高	260mm		点火方式	CDI		第2次減速歯数・比	45/14	3.214	
	車両重量	128kg		フレーム形式	ダイヤモンド		ヘッドライト	12V 35/36.5W (ハロゲン)		
重量	前輪分布	57kg	車	キヤスタ	26° 05'	灯	ブレーキ/テールランプ	12V 21/5W		
	後輪分布	71kg		トレール	96mm		方向指示灯	12V 10W × 4		
	車両総重量	238kg		ハンドル切れ角	左右各52°		メーター灯	12V 3.4W		
	前輪分布	83kg		フューエルタンク容量	7L / 予備容量約1L		パイロット ランプ	ニュートラル	12V 3.4W	
	後輪分布	155kg		ブレーキ形式 (前)	油圧式シングルディスクブレーキ			ヘッドライト上向き表示	12V 3.4W	
				(後)	機械式ドラムブレーキ			方向指示器表示	12V 3.4W	
乗車定員	2名	体	懸架方式 (前)	テレスコピック	器					
性能	定地燃費 (運輸省届出値)		49km/L (60km/h)	(後)		スイングアーム				
	最小回転半径		1900mm	緩衝方式 (前)		オイルダンパー/コイルスプリング				
原動機	最高出力		12kW(16PS)/ 8000 r/min	(後)		オイルダンパー/ガスコイルスプリング				
	最大トルク		15Nm(1.5kg・m)/ 7000 r/min	タイヤサイズ (前)		130/80-18 66P (チューブ有り)				
	原動機種類		4サイクル、空冷、SOHC	(後)		180/80-14M/C 78P (チューブ有り)				
	気筒数・配列	単気筒								
	総排気量	196cm ³ (cc)								

定地燃費は定められた試験条件のもとでの値です。走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。

サービスデータ

エンジン オイル	交換時	1000 cm ³ (cc)	ホイールトラベル	前	160 mm	スパーク プラグ	型 式 ギ ャ ッ プ	DR8EA	
	エレメント交換時	1100 cm ³ (cc)		後	150 mm			X24ESR-U	
	オーバーホール時	1300 cm ³ (cc)		前	125 kPa (1.25 kg/cm ²)			0.6 ~ 0.7 mm	
ドライブチェーンの張り具合		30 ~ 40 mm	タイヤ 空気圧	後	125 kPa (1.25 kg/cm ²)				
クラッチレバーの遊び		10 ~ 15 mm		1 名乗車	前	150 kPa (1.50 kg/cm ²)			
ブレーキの遊び		前			2 ~ 5 mm	後	175 kPa (1.75 kg/cm ²)		
		後		20 ~ 30 mm	2 名乗車	前	150 kPa (1.50 kg/cm ²)		
フロント ブレーキ		パッドの厚さ		5.3 mm		高速走行	前	150 kPa (1.50 kg/cm ²)	
		パッドの摩耗限度		0.8 mm (インジケター付)	後		175 kPa (1.75 kg/cm ²)		
リヤ ブレーキ	シューの厚さ		4.0 mm	バッテリー	型	式	GM7CZ-3D		
	シューの摩耗限度		2.0 mm (インジケター付)		容	量	12V 7Ah		

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

TW200E サービスマニュアル

部品番号

基本版：2JL-28197-00

追補版：4CS-28197-05

5LB-28197-05

追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

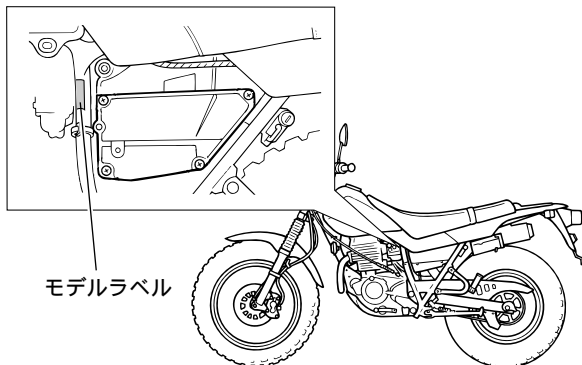
車両情報

モデルラベル

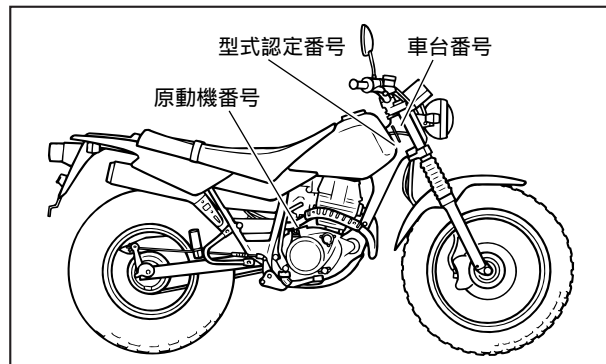
パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルはエンジン左後方のフレームに貼り付けてあります。



車台番号、原動機番号、型式認定番号
ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は	TW200E
モデルラベル	製品仕様を示しています。 カラーリングを示しています。

JAU04058

こんなときは、このページをご覧ください。

- エンジンが始動しないときは ……………P22
- 走行中にガソリンがなくなったときは ……………P21
- ランプ類が点灯しないときは（ヒューズ切れ）……………P49
- ランプ類が点灯しないときは（電球切れ）……………P54
- ブレーキのきき具合に異常があるときは ……………P37、40

●こまったときの連絡先

ヤマハ発動機株式会社 お客様相談室

所在地 〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

フリーダイヤル ☎ 0120-090-819

オープン時間 月曜～金曜（除く祝祭日）

9：00～12：00 13：00～17：00

携帯電話など、フリーダイヤルがご利用できない場合は、
0538-32-1166をご利用ください。

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

5LB-28199-J1



あなたの街のあなたのお店

TW200E取扱説明書
010100
再生紙を使用しています